



～本陣園 “総” 指導者体制へ～



社会福祉法人 内野会 特別養護老人ホーム 本陣園

本陣園 令和6年度の取り組み

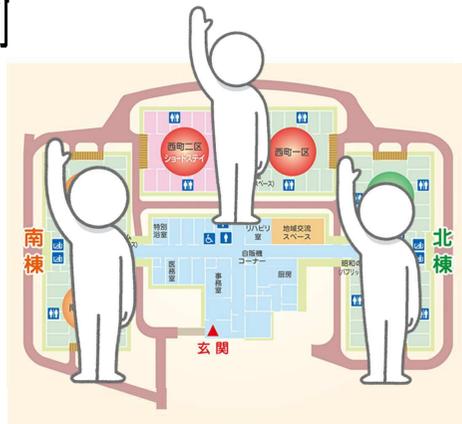
- 腰痛予防委員会が中心となり、施設内のノーリフティングケアを実践。
- 毎月挙がってくる課題を解決しながら、職場内の腰痛リスクを無くし、労働安全衛生水準の向上に尽力。
- 同時に抱えない介護技術の教育を進め、全介護職員の技術の底上げを目指した。

今回は、特に力を入れて実践した「教育」を中心に報告する。



本陣園での教育体制

- 各棟(2ユニット×3)に1名ずつ 指導者候補を選出。
- 実施日は毎月第3水曜日 16時～17時で固定。
- 指導者候補には早出勤務(7～16時)で出勤してもらい、研修時間を超過勤務とする。各ユニットリーダーにも協力を仰ぎ、勤務表もこれに合わせて作成してもらう。
- 毎月の委員会にて、現場職員への教育の進捗を確認



指導者候補は毎年交代する予定。



現場に技術を教えられる職員が複数いる体制へ！

指導者育成 実践内容

- 4月 ノーリフティングケアの必要性と目的の理解
専門職としての意識・態度
- 5月 コロナ発生のため中止
- 6月 身体の使い方
- 7月 コロナ発生のため中止
- 8月 スライディングボード
- 9月 電動リフト
- 10月 スライディングボード
- 11月 抱えない寝返り介助方法
スライディングシートを用いた寝返り介助
- 12月 スライディングボード、シートを用いた寝返り介助



令和6年度 指導者候補



研修参加:抱えない介護技術研修会(6月19日)

同じ筑豊地域のベテラン指導者の皆さまより、詳しく学ばせていただき、他施設の方々より学ぶ貴重な機会となった。



会場に本陣園を使っただけで多くの職員が参加！

人手の少ない中ですが...

◎ユニットリーダーをはじめ、現場職員がこころよく協力してもらえるように。

おかげさまで、新人職員を外部研修に出してもらえたり、施設内研修でも多くの職員が参加できるよう配慮してもらえたりと、ノーリフティングケアへ多くの人員を割いてもらっている。

◎現場での実技指導も活発に実施。教わる職員のスキルアップはもちろん、指導者側の教える技術もより確かなものへと成長！



現場での指導や実践

・年々、ノーリフティングケアが本陣園の隅々まで浸透してきていることを実感。

・スタッフの皆さんに感謝！

普及活動
筑豊地域

第2回 ノーリフティングケア フォーラム(11月6日)

本陣園の指導者3名が技術指導者として 福祉用具ケア方法を実演。
また、一般来場者として新人職員も2名参加。



法人の系列施設のシルバーケア嘉穂からも、副拠点長とリハ主任が参加！



もちろんリスクマネジメントも実践中！

●毎月の委員会で現場からのリスクを集約し、課題解決に向けてコツコツと実践を継続中。

●なかなか解決に至らない課題もあるが、見直しを繰り返し、少しでも腰痛リスクを軽減できるケア方法を模索中...

氏名	課題	状況	対応	進捗	担当者		
田中 幸子	自立歩行の補助が、車いすに座るときは、スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	10月～11月にかけて実施。本人の様子を見て、ベッドからの降下への補助が難しい。車いすに座るときは、スリッパの使用が難しい。	9～10月の6回実施済み。結果を報告中。	森	
西田 健	車いすの補助が、車いすに座るときは、スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	10月～11月にかけて実施。本人の様子を見て、ベッドからの降下への補助が難しい。車いすに座るときは、スリッパの使用が難しい。	9～10月の6回実施済み。結果を報告中。	森	
丸山 幸子	介護時、身体の高みや重心が、腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	藤中	
スタッフ	スリッパの補助が、車いすに座るときは、スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	車いすに座るときは、自立歩行の補助が難しい。スリッパの使用が難しい。	1月中	小田
正子様	介護時、身体の高みや重心が、腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。	腰に負担がかかる。腰に負担がかかる。		西田

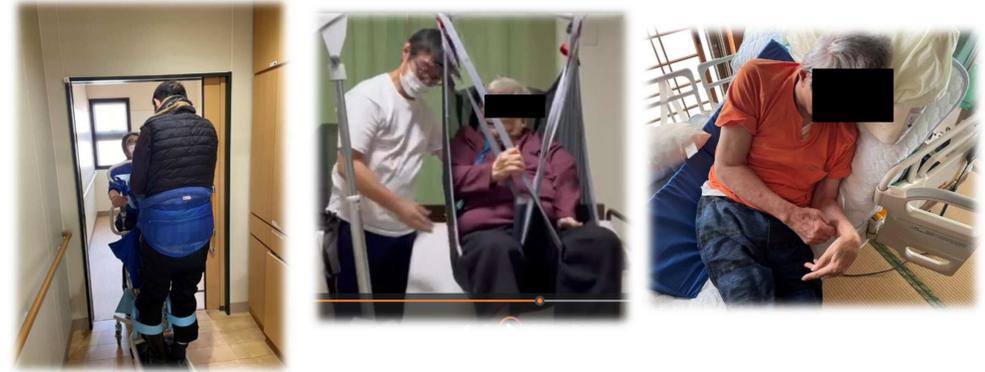
毎月の委員会では、指導者候補から現場職員への教育の進捗を確認すると同時に、入居者様個別のケア方法についても協議し、対策の周知～実践まで行ってもらうことで、指導者としての自主性や応用力の成長も期待。

福祉用具の活用や工夫により少しずつ前進を



・電動リフトやスタンディングリフト等の福祉用具の活用、自立支援を促すなどして抱えない方法での介助を実践。
⇒現場職員が自ら考え、抱えないケアを実践する姿が！

今後の課題：大柄な利用者様への対応



男性の利用者を中心に、大柄で介助に負担が大きい方が増加傾向。そういった方をどうやって福祉用具ケアに結び付けていくかが課題（介助中に腰痛が再発した職員も...）

腰痛調査 令和6年6月

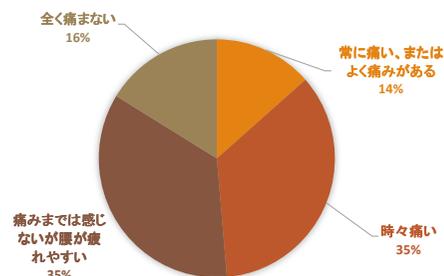
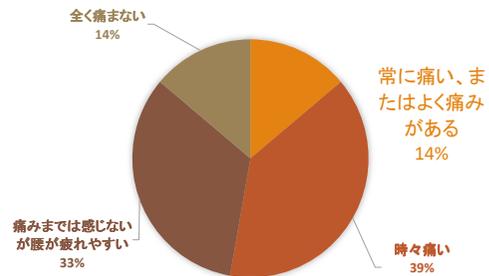
職員の現在の状況(腰痛)について

あり	常に痛い、またはよく痛みがある	5
	時々痛い	14
なし	痛みまでは感じないが腰が疲れやすい	12
	全く痛まない	5



⇒ 12月

あり	常に痛い、またはよく痛みがある	5
	時々痛い	13
なし	痛みまでは感じないが腰が疲れやすい	13
	全く痛まない	6



腰痛調査 令和6年6月 ⇒ 12月

日常業務において、持ち上げや抱え上げなどの介助はありますか？

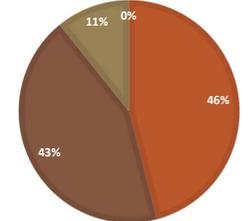
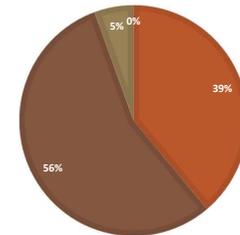
ほとんどがそう	0
一部あり	14
ほとんどない	20
ない	2



ほとんどがそう	0
一部あり	17
ほとんどない	16
ない	4

■ほとんどがそう ■一部あり ■ほとんどない ■ない

■ほとんどがそう ■一部あり ■ほとんどない ■ない



今後の展望として、職員ひとりひとりが他者へ適切な指導ができるレベルの技術を身に着け、同時に腰痛リスクへ適時対応し事故を未然に防ぐことで、腰痛者や抱え上げ介助ゼロを目指す